

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

一般社団法人 日本保育者未来通信

② 施設・事業所情報

名称：にじのそら溝の口保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：野呂 桂子	定員（利用人数）： 50（57）名
所在地：川崎市高津区久本3丁目9-9	
TEL：044-455-7620	ホームページ： <a href="https://www.fukushi-nijinokai.net/">https://www.fukushi-nijinokai.net/</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2018年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人虹の会	
職員数	常勤職員： 17名 非常勤職員： 6名
専門職員	園長 1名 栄養士 1名
	保育士 17名 調理員 1名
	看護師 1名 調理補助者 1名
	子育て支援員 1名
施設・設備の概要	0歳児室（沐浴室含む） 1室 遊戯室（絵本ルーム含む） 1室
	1歳児室 1室 事務室（医務室含む） 2室
	2歳児室（兼延長保育室） 1室 相談室 1室
	3歳児室（兼延長保育室） 1室 子ども用トイレ 3個
	4歳児室 1室 大人用トイレ 3個
	5歳児室 1室 屋外遊技場（1階園庭） 47.54㎡
	調理室 1室 屋外遊技場（屋上園庭） 146.86㎡

③ 理念・基本方針

【保育理念】

- ・子ども一人ひとりの人権を尊重しながら子どもの健やかな成長発達を保障します
- ・保護者と協力関係を築き、子どもの最善の利益と福祉の向上を図ります
- ・地域子育て支援としての役割を果たします

【保育方針】

- ・一人ひとりの子どもを大切に、集団の中でそれぞれの個性を発揮できるよう、自発的、主体的に行動できる子どもに育てます
- ・保護者との信頼関係を深め、十分に連絡を取り合い家庭とともに健やかでこころ豊かな子どもに育つよう協力しあいます
- ・安心感がもてるよう保育者のきめ細かな援助やかかわりを大切にします
- ・さまざまな体験を通して豊かな感性を育て創造性の芽生えを養います
- ・育児をめぐるさまざまな問題への対応を専門機関と連携し、広く子育て支援の役割をもち、地域に開かれた保育園づくりをします

【保育目標】

- ・生き生きとあそべるこども
- ・心の豊かなこども
- ・自分で考えて自発的に行動できるこども

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

【3つのプロジェクトチームの活動を通して、保育の質の向上につなげています】

園では、「環境プロジェクト」「食育プロジェクト」「運動遊びプロジェクト」を立ち上げ、各プロジェクトが連携することで、保育の質の向上につなげています。

プロジェクトメンバーは、主任が職員配置や経験年数等を考慮し編成しています。編成されたメンバーは、月に1回打ち合わせを行い、保育内容について意見交換を行っています。

食育プロジェクトの打ち合わせの中で「食事の際に姿勢の維持が難しい」というテーマがあがった際、姿勢維持のためには体幹を育むことが大事ではないかという意見が出された結果、運動遊びプロジェクトと連携することとなりました。そして、ホールに吊りロープを設定し、年齢に応じてロープの結び目を変えて登るなどの運動遊びの実施にもつなげています。

また、環境プロジェクトのメンバーが各保育室の環境設定で気付いた点を伝えることで、保育所内外の設備・用具の管理をはじめ、玩具棚の配置を変えるなど、専門的な視点での振り返りが実施され、子どもの発達や興味に応じた環境設定につながっています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年 6月 6日（契約日） ～ 令和4年 11月24日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（今回が初）

#### ⑥総評

◇特長や今後期待される点

【人財育成方針を策定し、職員一人ひとりに応じた、育成体制が整えられています】

法人では、「人材」を「人財」と捉え、人財育成方針を策定し、職員一人ひとりに応じた育成体制が整えられています。人財育成方針には、「法人の基本理念」「目指すべき職員像」「行動指針」が記載され、方針を常に念頭に置き、子どもの最善の利益につなげることを目的に方針が策定された経緯が明記されています。

「法人の基本理念」の実現のために、目指すべき職員像として、「思いやりと豊かな心を持つ人」「笑顔のコミュニケーションが取れるまろやかな人」「向上心を持ち前向きにチャレンジできる人」「感謝と誠意のある人」が示され、行動指針として、「子ども、保護者、先輩、同輩、後輩、地域の方々など関わる人全てに対して思いやりと豊かな心で接します」「相手の立場に立って物事を捉え、笑顔と柔軟なコミュニケーションを心がけます」「人として、専門職として、主体的、自発的に真摯に学び、何事にもチャレンジ精神を持って取り組みます」「何事にも感謝と謙虚な気持ちを忘れず、誠意をもって取り組みます」と記載されています。

また、人財育成方針と連動してキャリアラダーが作成されています。キャリアラダーでは、経験年数に応じて求められる専門性業務や社会人・組織人として備えるべき資質が職種別に示されるとともに、受講が必要な研修も記載され、職員がキャリアビジョンを描きながら日々の課題を明確にし、職務にあたるよう体制が整えられています。また、キャリアラダーステップにもとづいた、職員一人ひとりに応じた自己評価票が整備されています。自己評価票には、目標と具体的な取り組み、反省・評価・今後の課題について記載します。併せて、自己評価チェックシートにて社会人・組織人として備えるべき資質をチェックするとともに、職種別経験年数別の専門性業務も合わせてチェックする仕組みを設けています。

これらの取り組みにより、人財育成方針にもとづいた、職種別、経験年数に応じて

求められる職員像を明確にし、一人ひとりの職員が自己評価票で確認するとともに、年に3回の園長面談を実施し、進捗状況を確認することで、職員一人ひとりに応じた、育成体制が整えられています。

【子ども一人一人の生活リズムや興味、関心に応じて生活できる環境が整えられています】

保育所内外は、整理整頓が行き届き、子ども一人ひとりの生活リズムや興味、関心に応じて生活できる環境が整えられています。生活の面においては、食事のスペースと午睡のスペースを分けることで、一人ひとりの生活リズムに応じてゆったりと生活ができるとともに、幼児クラスでは準備のできた子やグループから食べ始めることで、一人ひとりのペースに合わせて生活できるよう配慮されています。また、乳児クラスでは緩やかな担当制を取り入れ、個々の子どもの様子の適切な把握につなげていきます。職員が個々の様子を踏まえて、食事や排せつ、睡眠に関わることで子どもが安心して過ごせるよう配慮しています。また、マットの上で横になることができるスペースや、室内に2~3人程度の子が入って静かに過ごすことができる空間、ホールの一角に設置された図書コーナーなど、ゆったりと過ごし、休息ができるスペースが室内に常備されています。

遊びの面においては、構成遊び、ごっこ遊び、机上の遊びなど遊びの種類ごとにコーナーが設定され、一人ひとりの子どもが、自身の興味や関心にもとづいて遊ぶことができるよう環境が整えられています。また、作った物や遊び途中の物を置いておくことができるスペースを確保することで、継続した遊びができるよう配慮しています。身体を動かす遊びについては、保育室内にバランスを取って遊ぶ遊具や、跳びはねて遊ぶことができるタイヤなどが設定されるとともに、ホールにも吊り具のロープを設置しています。縄跳び、鉄棒、巧技台、飛び石、マット、トランポリン、じゃれつき遊びなどにも取り組んでいます。

1階の園庭には砂場やタイヤ、ごっこ遊び用の小屋やテーブル、いすなどが設置されています。またプランターでは、ピーマン、なす、きゅうり、ニンジン、オクラ、トウモロコシなどを育てています。さらに雑草を植えることで、子どもたちが自由に草を摘むなどの経験ができるよう配慮しています。

屋上の園庭には、コンビカーや三輪車、竹馬やフラフープを用意するとともに、組み合わせを変えることで様々な身体活動が可能な大型遊具が設置されています。また、プランターではお米作りに取り組んだり、泥遊びができる環境も整えています。

【さらなる地域への貢献、地域との交流が期待されます】

園では、区の園長会や主任児童委員との意見交換等を通して地域の福祉ニーズを把握しています。把握されたニーズを踏まえ、園では、地域に向けた絵本の貸し出しの実施や育児相談、にじっ子ひろばと呼ばれる地域子育て支援事業を実施しています。にじっ子ひろばでは、親子で楽しむ手遊びと絵本の読み聞かせの実施や、保育士、看護師、栄養士の専門職による子育て相談や離乳食講座等を実施しています。これらの実施内容については、区が発行する情報誌への掲載や、園のホームページ、また園外の掲示板に貼り出し周知に努めています。

また、年長児が近隣の保育所と交流し、合同で消防署見学を行ったり、近隣の公園で一緒に遊んだりするなど、地域との交流にも取り組んでいます。

今後は、安定した職員体制と、経験年数が長く、保育経験が豊かな職員が多く在籍する当園の強みを生かし、コロナ禍においても実現可能な、地域に向けた保育体験や給食体験などの子育て支援や近隣の高齢者施設等との交流、また中学生・高校生等の職場体験の受け入れの実施など、さらなる地域への貢献と交流が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

- ・第三者評価を受審する目的は保育の質の向上と保育や運営の課題を明らかにすることであり、職員間で共有して取り組むことが出来た。
- ・一つひとつ丁寧に見直す機会となった。
- ・利用者アンケートは毎年行っているが、今回のアンケートからの意見も今後に活かしていきたい。
- ・第三者評価者に各クラスの保育を観察していただき、各クラスが大事にしていることを理解していただけたことが職員の励みとなった。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり